

シンポジウム「データサイエンスと人文学の協働による研究・教育の可能性：九州大学数理・データサイエンス教育研究センターの取り組み」

上山, あゆみ
九州大学大学院人文科学研究院 : 研究院長

太田, 真理
九州大学大学院人文科学研究院

内田, 誠一
九州大学大学院システム情報科学研究院 : 教授

川野, 秀一
九州大学大学院数理学研究院

他

<https://doi.org/10.15017/6776430>

出版情報 : 2023-03-15. Faculty of Humanities, Kyushu University
バージョン :
権利関係 :



KYUSHU UNIVERSITY 2011
100th Anniversary

「Xプログラム」について

上山あゆみ（九州大学人文科学府長）



KYUSHU UNIVERSITY



- 文部科学省大学教育再生戦略推進費
「デジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構
築事業 ～Xプログラム～」



- 文部科学省大学教育再生戦略推進費
「デジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業 ～Xプログラム～」
 - 人文社会科学系分野等に数理・データサイエンス・AI分野の要素を含む学位プログラム等を設定した、人材を育成する取組を支援することを目的としたプログラム



- 文部科学省大学教育再生戦略推進費
「デジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業 ～Xプログラム～」
 - ウェル・ビーイングの実現に貢献する高度人文情報人材養成プログラム：人文学×データサイエンスによる「人文情報学」大学院の設置



事業の必要性

- データ分析やAIには、**人間存在を中心とした視点**が極めて重要である。
 - どのようなデータをどのような視点で分析するかは、人間が決めなければ無意味になる。
 - AIが「何を学ぶべきか」「何を正しいとするか」という根源的課題も、人間が解決するべきである。
- ゆえに、データ分析やAIによって社会をより良いものにしようとするならば、そこには必ず「人間存在を中心とした視点」、すなわち「**人文学的視点**」が必要になる。



人間存在を中心と
しつつ、テキストや
画像を対象とした
実証的な分析を強
みとする

人文科学府



人文科学府

ライブラリ・サイエンス専攻

情報やデータをどのように保存し管理するべきかという専門的な研究を行う



人文科学府

数理データサイエンス
教育研究センター

ライブラリ・サイエンス専攻

人社系を含めた広い範囲に対してデータ
サイエンス教育を行う



人文科学府

人文情報学

数理データサイエンス
教育研究センター

ライブラリ・サイエンス専攻

研究科等関係課程の枠組みを活用した「人文情報関係学府」（修士課程）を新たに設置し、人文学×データサイエンス「人文情報学」の学位プログラム（ダブルメジャー）の構築を目指す。



年次計画

2022年度	Xプログラム スタート カリキュラム設計
2023年度	設置申請
2024年度	開講 準備 入試
2025年度	開講 1 年目
2026年度	開講 2 年目
2027年度	Xプログラム 総括



養成する人材

- これまでの人類の歴史と共に蓄積された様々な人文学の知見に基づく「人間存在を中心とした視点」を持ち、さらにそれを用いて、例えばウェル・ビーイング社会の実現に相応しい「価値観」を考えることができる。
- 分野横断的な知識とスキルにより、情報管理やデータ分析を専門する技術者との建設的な議論を行うことができる。
- さらに、自身の考えを具体的な分析タスクに落とし込んだり、さらにはデータ分析による限界や弊害を見出すためことができる。
- 必要に応じて、自分自身で必要な情報を管理し、プログラミング等によりデータ分析もできる。



人文情報学（デジタル・ヒューマニティーズ）

- 人文情報学は、社会にとって必要であるだけでなく、人文学そのもののためにも必要である。
 - 旧来のやり方を守っているだけでは、これまでの人文学の知見の蓄積が未来に受け継がれない恐れがある。
 - しかし、資料を単にデジタル化しただけでは、そこには、これまでの知見が含まれていない。
- デジタル化された資料に人文学の知見を加えることによって、データそのものの深みが増し、より意味のある成果が生まれる。



人文学研究

データサイエンス
分析手法・ツールの開発

アノテーション
付きデータ

テキストデータ

目録データ

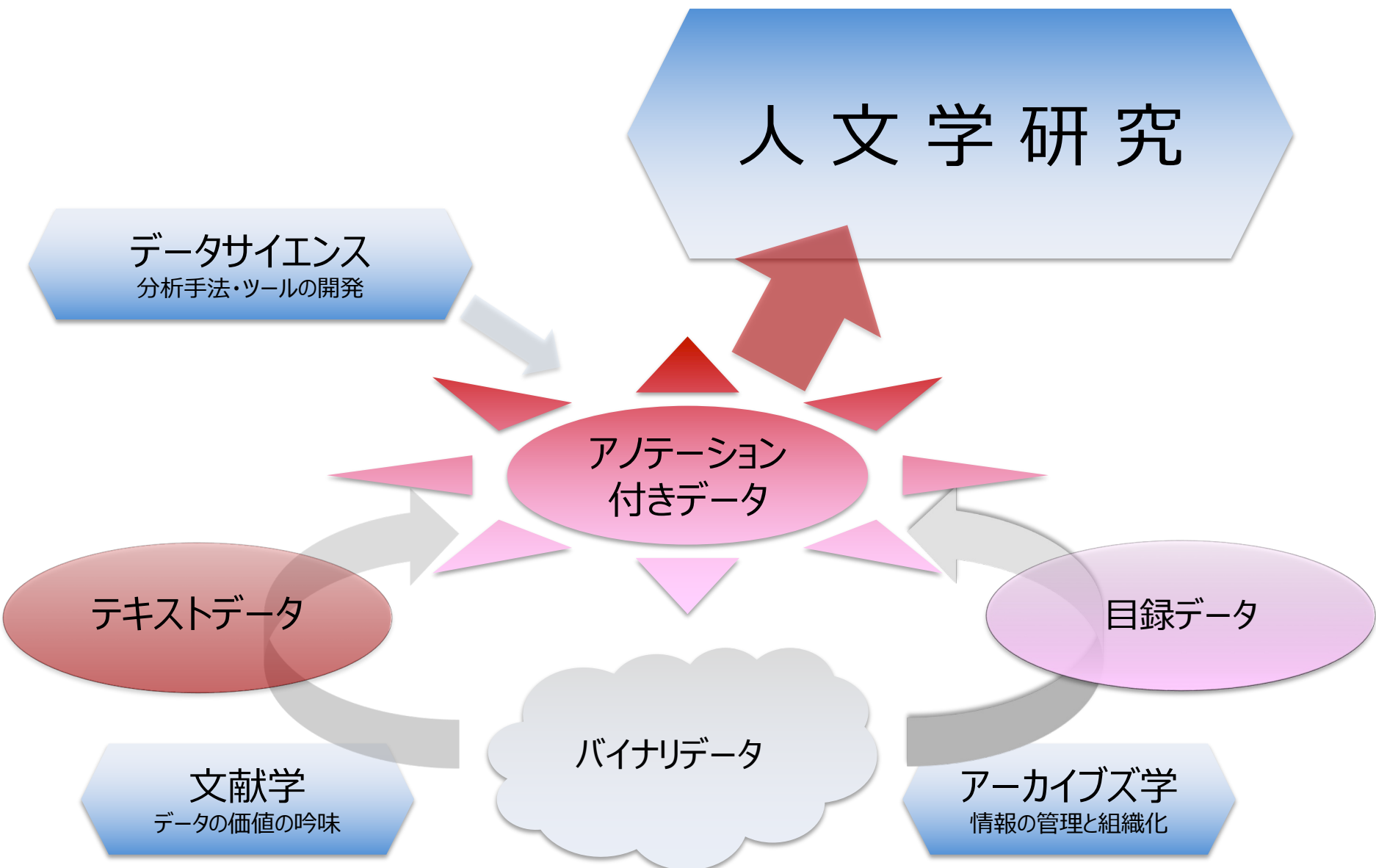
文献学

データの価値の吟味

バイナリデータ

アーカイブズ学

情報の管理と組織化





アノテーションの重要性

- 貧しいデータからは、貧しい結論しか生まれない。
- アノテーションの付け方によって、見逃されていた事実が浮上することもある。
- アノテーションの付け方が不適切であれば、重要なことも埋もれてしまう。



具体的な課題

- どのようにアノテーションを付けるべきか？
 - 分野によって、何が重要であるかが異なる。
 - だからといって、分野によってまちまちでは、利用しにくい。
- 個別性と標準化をどのように両立させるかが大きな課題となる。
- この課題解決を念頭に置きつつ、他方、データサイエンスによって人文学にどのような新たな展開が可能なのか、今後の発展におおいに期待をしている。